

達第百二十三號

艦船造修試験検査規則中左ノ逕改正ス

明治四十年十一月十一日

海軍大臣男爵齋藤實

第六條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 起工後毎一個月ニ一回工事ノ程度歩合及第一號様式ニ依リ搭載重量但シ戰艦及一

等巡洋艦ノ搭載重量ハ進水ニ至ルマテノ間毎半個月ニ一回

第四十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ工事竣工シタルトキハ海軍工廠長ハ直ニ其ノ完成圖面及工費、材料費決算書並

重量増減表(第八號様式)ヲ調製シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第五十五條 艦船外部ノ著色ハ左表ニ依ルヘシ

艦船外部著色規定	外舷全部並外舷ノ上部以下ニアル大砲其ノ他舷外ノ附著物	煙突、橋桁、斜桁、「アライク」、「アンカー」、「テサイツ」ト全部	司令塔、艦橋、進風筒、「クーシング」並上甲板以上ノ諸室
	外側		



百五十五

海軍

工作船	運送船			潜水艇	驅逐艦及水雷艇			軍艦					
	載	搭			搭	本	載	搭		載	搭		本
		端舟及通船	小蒸氣船					端舟及通船	小蒸氣船		端舟及通船	小蒸氣船	
黑	黑	黑	黑	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	
	黑	黑		白		鼠		鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	
	黑	黑		白		鼠		鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	

等並上甲板ノ内舷下部汚シ易キ部分高サ凡ソ十六吋充モ内舷ノ舷ヲ錆色トス但シ船内ト雖様ニ依リ伸縮スルコトヲ得
モ汚シ易キ部分ハ錆色トナスコトヲ得

第六十八條 修理改造公試運轉ハ左ノ場合ニ於テ左ノ方法ヲ以テ執行スルモノトス

一、機關ノ總檢査ヲ行ヒ修理結了シタルトキ若ハ機關ニ大修理改造ヲ施シタルトキ其ノ修理等ノ完全ナルヤヲ試驗スル爲メ圓籠ヲ備フル軍艦ニ在テハ自然通風全力水管罐ヲ備フル軍艦ニ在テハ強壓通風全力ノ十分ノ八ヲ以テ四時間、驅逐艦水雷艇ニ在テハ強壓通風全力ノ十分ノ八ヲ以テ二時間ノ繼續運轉ヲ爲スモノトス但シ喫水ハ艇艇ノ常備状態ニ於ケルモノトシ船底ノ狀況ハ清潔ナルヲ要ス

二、推進器ヲ變更シ若ハ船體機關ニ著シキ修理改造ヲ加ヘ馬力ト速力トノ關係如何ヲ試驗スルノ必要アルトキ第七十七條中必要ト認メタル事項及第七十八條ニ依リ執行スルモノトス

第六十九條 圓籠若ハ汽車罐ヲ備フル艇艇ニ在テハ第七十七條及第七十八條ノ公試運轉成績ニ於ケル自然通風全力、水管罐ヲ備フル艇艇ニ在テハ強壓通風全力ノ八割ヲ以テ

其ノ艇艇ノ標準全力トシ修理改造公試運轉ノ全力ニシテ標準全力ト差違アル場合ト雖モ全力ノ五分ノ四、五分ノ三、五分ノ二、五分ノ一等ノ速力ハ標準全力ニ依ルヘシ

第七十條中機關運轉主任者ノ部豫備艦部機關長ノ下「驅逐艦ニ在リテハ」以下「水雷艇ニ在リテハ」迄ヲ「驅逐艦及水雷艇ニ在テハ各其ノ艇艇ノ屬スル隊ノ機關長、機關長ナキトキハ」ニ改ム

第七十七條第七號ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ航行標柱間ノ距離一海里ハ六千八十呎トス

第七十八條 第六十七條ノ新造公試運轉ハ特ニ製造方法書ニ規定シタル事項ノ外軍艦ニ在テハ左記第一號乃至第五號、驅逐艦及水雷艇ニ在テハ第三號乃至第七號ニ依ルヘシ

一、圓籠ヲ備フル軍艦ニ在テハ強壓通風全力、自然通風全力ニテ各標柱間ヲ順潮一回、逆潮二回試航シ其ノ速力ノ第二平均ヲ以テ一時間ノ強壓通風全速力及標準全速力ト定ムヘシ又自然通風全力ノ五分ノ四、五分ノ三、五分ノ二、五分ノ一、及十海里ニ對スル馬力ニテ各標柱間ヲ順潮一回逆潮一回以上試航スルモノトス

水管艦ヲ備フル軍艦ニ在テハ強壓通風全力ニテ四時間ノ航績試験ヲ施行シ此ノ時間内ニ於テ便宜標柱間ヲ順潮二回逆潮二回試験シ其ノ速力ノ第二平均ヲ以テ一時間ノ強壓通風全速力ト定ムヘシ又強壓通風全力ノ十分ノ八、十分ノ六、十分ノ四、十分ノ三、十分ノ二及十海里ニ對スル馬力ニテ各標柱間ヲ順潮一回逆潮一回以上試験スルモノトス

二、風艦ヲ備フル軍艦ニ在テハ自然通風全力、水管艦ヲ備フル軍艦ニ在テハ強壓通風全力ノ十分ノ八ヲ以テ六時間ノ航績試験ヲ執行スヘシ但シ本試験ヲ前項ノ標柱間自然通風全力若ハ強壓通風全力十分ノ八ノ公試運轉ニ引續キ執行スルトキハ其ノ時間ヲ含有セシムルコトヲ得又本試験ニ於ケル速力ハ標柱間ノ自然通風全力若ハ強壓通風全力十分ノ八ノ公試運轉ニ於テ得タル毎分平均回轉數ニ依ルヘシ

三、指壓圖ハ標柱間ノ各試航中ニ畫據スヘシ

四、標柱間試航中ハ其ノ總回轉數ヲ計測スヘシ

五、公試運轉ハ艦艇ノ常備狀態ニ於ケル喫水ヲ以テ執行シ其ノ船底ノ狀況ハ清潔ナル

ヲ要ス

六、驅逐艦及水雷艇ニ在テハ強壓通風全力ニテ標柱間ヲ順潮三回逆潮三回試験シ其ノ速力ノ第二平均ヲ以テ一時間ノ全速力ト定ムヘシ

七、前項標柱間試航ニ引續キ強壓通風全力ニテ一時間航路ハ成ルヘク
眞直ナルヲ要スノ航績試験ヲ執行スヘシ

第八十一條中「驅逐艦ニ在リテハ」以下「水雷艇ニ在リテハ」迄ヲ「驅逐艦水雷艇ニ在テハ各其ノ艦艇ノ屬スル隊ノ機關長、機關長ナキトキハ」ニ改ム

第八十八條ノ第十六號ヲ左ノ通り改メ第十七號ヲ加フ

十六、艦ノ蒸氣發生力試験ニ要スル強壓通風ハ假製閉塞式ニ依ルヘシ但シ萬已ムヲ得サル場合ニハ「ステーム、ブラスト」ヲ用ユルモ妨ケナシ

十七、艦製作ノ如何ヲ試験スル爲メ左ノ方法ニ依リ漏洩試験ヲ行フヘシ

一 試験中ハ少ナクモ十二時間以上使用壓力ヲ維持スルモノトス
二 試験中ハ萬已ムヲ得サル外ハ給水ヲ送ラス試験時間ノ終リニ於テ給水ヲ最初ノ

水準ニ復サシメ其ノ量ヲ以テ漏洩ノ量トスヘシ

三 試験中ハ罐ノ本體ハ勿論附屬物ニ漏洩ノ箇所アルヲ發見スルモ決シテ之カ防止ノ方法ヲ講スヘカラス

第九十五條中「自然通風全力」トアルヲ「標準全力」ニ改ム

第一百七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第一百八條 旅順海軍工作部及海軍修理工場ニ於ケル艦船造修試験検査手續ハ適用シ得ル限り本則ヲ準用ス

本則及附屬様式中「汽艇」トアルヲ總テ「小蒸氣船」ト改ム

附屬様式第一號ヲ別紙ノ通改ム

附屬様式第三號目錄中第三十定備品目錄ヲ削ル

附屬様式第七號表中端舟ノ部「樞」ヲ「棧」ニ改メ同欄内横列「長」「豫備數」「計」ノ三欄及末欄「樞受ニ觸ル」部へ草ヲ、水挽ノ部分へ銅板一條ヲ綴附ス」ヲ削除シ通船及傳馬船ノ部「樞數」ヲ「樞」ニ改メ「常用數」ノ下空欄二列ヲ削ル

百五十九

海軍

附屬様式第八號重量増減表備考ヲ左ノ如ク改ム

此様式發布以後第一回ノ上申及其ノ竣工報告ノトキニハ本艦船ノ現状ニ於ケル重量ヲ竣工總重量トシテ各欄ニ記入スヘシ

第二回以後ノ上申及其ノ竣工報告ノトキニハ其ノ改造等ニ依テ生スル異動ノミヲ記入スヘシ

數字ハ上申ノトキハ豫定ヲ朱書シ竣工報告ノトキハ實際ヲ黒書スヘシ

増減ヲ明カニスル爲メ増ニハ符號ヲ付セス減ニハ「一」符ヲ付スヘシ

期日ハ上申ノトキハ竣工豫定期日ヲ記入シ竣工報告ノトキハ竣工シタル月日ヲ記入スヘシ

何 艦 艇

何 年 何 月 何 日

3046

搭 載 重 量						
	計畫豫定重量	自起工		自何年何月何日		至何年何月何日 月間
		至	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	
					合 計	竣工=至/迄残りの重量豫定*
船殼						
艙裝						
砲塔甲鐵及釘						
砲塔頂板						
砲塔甲鐵背材						
甲鐵及釘						
甲鐵背材						
防禦甲板 (板ノミ)						
前司令塔 (瞭望共)						
後司令塔 (瞭望共)						
揚彈筒						
通報筒						
推進機械						
補助機械						
罐						
罐附屬品						
補助罐及附屬品						
機關部豫備品						
樁・帆・諸回材・綱具等						
錨 何挺						
錨鎖・錨網並附屬品						
水雷艇 何隻附屬品共						
小蒸氣船何隻附屬品共						
端舟 何隻附屬品共						
通船 何隻附屬品共						
水雷防禦網並附屬具						
合 計						

(第一號様式)

何海軍工廠長印

造船部長印

* 報告當時ニ於ケル豫定ヲ記入スルモノトシ

達第百二十四號

艦艇汽走速方規則中左ノ通り改正ス

明治四十年十一月十一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第一條第二號中「全速力」ヲ「標準全速力」ニ改ム

第三條ヲ左ノ通り改正ス

第三條 標準全速力ハ圓罐若ハ汽車罐ヲ備フル艦艇ニ在テハ自然通風全力、水管罐ヲ備フル艦艇ニ在テハ強壓通風全力ノ八割ヲ以テ得ラル可キ速力ヲ云フ
但圓罐ニ在テハ水高二分ノ一吋以內汽車罐ニ在テハ水高一吋以內ノ通風ヲ用フルニ
トヲ得

第四條、第五條、第六條、第七條中「全速力」ヲ「標準全速力」ニ改ム

第九條ヲ左ノ通り改ム

第九條 第一條ノ第二號以下ノ各種ノ速力ヲ以テ汽走スルニハ圓罐及汽車罐ニ在テハ

百六十

海軍

自然通風水管罐ニ在テハ自然通風又ハ適宜強壓通風ヲ使用スルモノトス

第十條第一項中「強壓通風全速力及」ノ下「全速力」ヲ「標準全速力」ニ改ム

3047

達第百二十五號

艦艇機關高力運轉規則中左ノ通り改正ス

明治四十年十一月十一日

海軍大臣 男 齋藤 實

第三條第一號及第二號中「自然通風全力」トアルヲ「標準全力」ニ改ム

第三條第三號中「強壓通風全力ノ八割」トアルヲ「標準全力」ニ改ム

第三條中第四號ヲ左ノ通り改ム

四、標準全力ニ達スルヲ目的トシ施行セラル可キ運轉ハ最近公試成績ノ程度ヲ標準トスヘシ

第四條ヲ左ノ通り改ム

第四條 最近公試運轉成績ニ於ケル程度ニシテ艦船要目表登録ノ標準全力ノ五分ノ三

以下ニ降下セシ艦艇ニ在テハ其ノ當時ノ程度ヲ以テ第三條ニ據リ運轉ノ全時間ヲ繼續運轉スヘシ

第五條中「自然通風全力」トアルヲ「標準全力」ニ改ム

百六十一

海軍

3048



大正三年陸軍
百三十一号附則
以下本号廢止

達第百二十六號

學術卒業證書授與式施行手續左ノ通改正ス **明治三十五年陸軍百三十一号**

明治四十年十一月十六日

海軍大臣 男爵齋藤 實

學術卒業證書授與式施行手續

- 第一條 海軍各學校ニ於ケル卒業證書授與式ハ本手續ニ依リ之ヲ施行ス
- 第二條 式場ノ設備ハ別紙圖例ニ依ル但シ必要ナルトキハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得
- 第三條 證書受領ノ手續ハ左ノ如シ(圖例參看)
 - 證書受領者ハ指名ニ應シ列ノ中央前(イ)ニ出テ正面前進シ玉座ノ六步前(ロ)ニ進ミ敬禮ヲ行ヒ所要ノ向ニ轉シ校長ノ前六步ノ所(ハ)ニ至リ敬禮シ卓前ニ進ミ證書ヲ受ケ三歩後退シテ敬禮シ元位置ニ復スヘシ
- 第四條 御下賜品拜受ノ手續ハ左ノ如シ(圖例參看)
 - 前條ニ準シ第一回ノ敬禮ヲ行ヒ所要ノ向ニ轉シ御下賜品奉授者(通例侍從武官)ノ六步

百六十二 海軍

- 前ニ至リ敬禮ヲ行ヒ卓前ニ進ミ兩手ヲ以テ御下賜品ヲ奉戴シ之ヲ胸前水平ノ位置ニ保持シ三歩後退シ轉同シテ敬禮點(ロ)ニ至リ御下賜品ヲ左手ニ移シ敬禮シ轉同シテ元位置ニ復スヘシ
- 第五條 臨御若ハ皇族ノ御臨場ナキトキハ玉座ノ位置ニ海軍大臣ノ席ヲ設ク又練習生ニ證書ヲ授與スル場合ニハ右ノ位置ニ教育本部長 軍醫學校ニ在テハ醫務局長 經理學校ニ在テハ經理局長ノ席ヲ設クヘシ
前項ノ場合ニ侍從武官東宮武官ヲ差遣ハサル、トキハ右位置ノ右方ニ並列シテ其ノ席ヲ設クヘシ(圖例ニ參看)
- 證書受領ハ第三條ニ準ス
- 御下賜品拜受ハ第四條ニ準ス但シ(ロ)點ノ敬禮ハ之ヲ行ハス
- 第六條 證書證狀受領者多數ナルトキハ適宜總代者ヲシテ受領セシムルコトヲ得
- 第七條 卒業式ニ當リ講演ヲ爲サントスルトキハ圖例三ニ依ルモノトス
- 第八條 各學校ニ於テ學生及生徒ノ卒業證書授與式ヲ施行スルトキハ海軍大臣及教育本部長 軍醫學校ニ在テハ醫務局長 經理學校ニ在テハ經理局長其ノ式場ニ參列スルモノトス

練習生ニ證狀ヲ授與スル場合ニハ教育本部長平醫學校ニ在テハ醫學局長
總理學校ニ在テハ總理局長ノミ參列スルモノト
ス

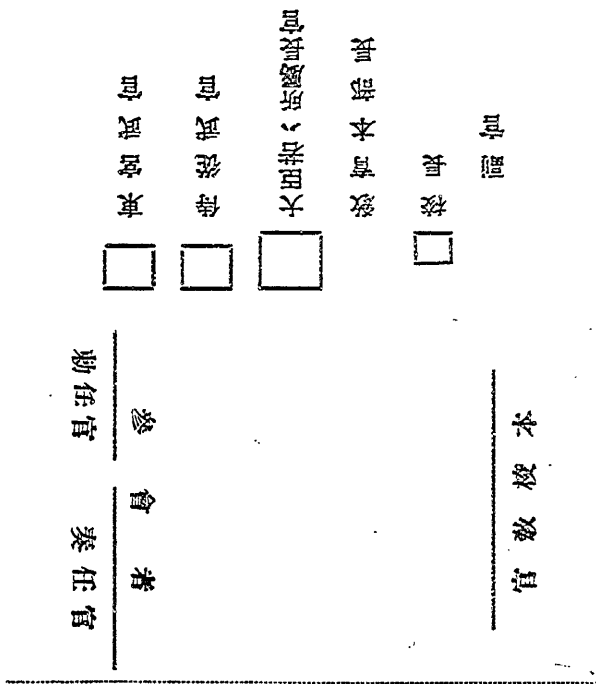
第九條 海兵團、病院ニ於ケル證書證狀授與式ハ本手續ニ準シ施行スヘシ其ノ參列官ハ
鎮守府司令長官トス

百六十三

海
軍

3050

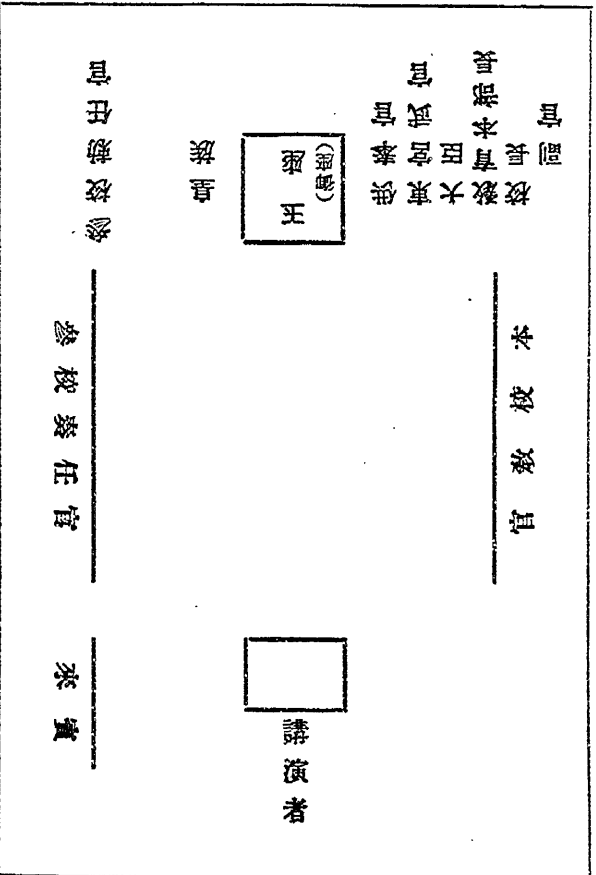
(圖例 一)



本例ノ外國例ニ同シ

3052

(圖例 三)(講演室)



達第百二十七號

株式會社川崎造船所ニ於テ製造ノ第一號通報艦ヲ浚ト命名セラル
明治四十年十一月十九日 海軍大臣 男 爵 齋 藤 實



百六十四

海軍

3053

達第百二十八號

吳海軍工廠ニ於テ製造ノ第一號裝甲巡洋艦ヲ伊吹ト命名セラル
明治四十年十一月二十一日 海軍大臣 男 齋藤 實

百六十五

海軍

3054

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百二十九號

艦艇類別等級別表中巡洋艦ノ稱一等ノ下「鞍馬」ノ次ニ「伊吹」ヲ加フ

明治四十年十一月二十一日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

百六十六

海軍

3055

達第百三十號

海軍工廠處務細則中左ノ通改正ス

明治四十年十一月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第一條ヲ第一條ノ二トシ同條中ノ第五號及第六號全文ヲ削除シ新ニ第一條ヲ左ノ如ク加フ

第一條 副官ハ廠長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、公文書類ノ接受發送及各部庫ニ屬セサル事務ニ關スルコト
- 二、守衛使丁定夫給仕等ノ使役監督ニ關スルコト

達第百三十一號

旅順海軍工作部處務規程中左ノ通改正ス

明治四十年十一月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第二條 削除

百六十七

海軍

達第百三十二號

兵器經理規程中左ノ通り改正ス

第十八條中「火管條」ノ下ニ「無線電信機用假製現波管、同電鎗用燭着片、魚形水雷衝突頭部、安全溶解栓」ヲ追加ス

別表第壹號中第一種消耗品水雷之部ヘ「安全溶解栓」ヲ追加ス

明治四十年十一月二十二日

海軍大臣 男爵齋藤實

正誤

本年達第百三十二號中「防備隊司令官」ノ下(防備司令)ハ(防備隊司令)ノ誤

海軍省副官

百六十八

海軍

3057

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第百三十三號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年十一月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第三十一條 給與令第五表及第六表ノ第二欄中並第七表第三欄中本邦沿岸ノ加俸ハ北緯四十四度又ハ二十六度ニ達シタル日ヨリ同緯度ヲ離レタル日迄之ヲ支給ス
第三十三條 第三項中「韓國」ノ下ニ「北緯三十七度以北」ヲ加ヘ「清韓」ノ額ヲ「清國沿岸及韓國沿岸」北緯三十七度以北ノ額ニ改ム

第三表備考第二號中「十五摺」ノ下ニ「以下」ヲ加フ
附 則

本達ハ明治四十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

達第百三十四號

百六十九

海 軍

雇員傭人給與規程第四表中

本邦沿岸
北緯三十七度以北

清韓、亞細亞露領沿岸

ヲ

本邦沿岸北緯三十七度以北同予本度以南
清國、亞細亞露領沿岸
韓國沿岸北緯三十七度以北

ニ改正シ、明治四十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十一月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤 實